

まちづくり懇談会内容

日 時：令和 5 年 10 月 29 日（日） 13：27～14：48

場 所：桜山会館

出席者：14 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認及び進め方の説明

3. 懇談

（１） これからのまちづくりについて（資料①）

（２） 自由懇談

教育長説明

4. その他

○ごみ分別内容の変更（資料②）

5. 閉会 町長挨拶

懇談会終了

《懇談内容》

【自由懇談】

町民：畑地化の件で、私たちに十分な説明がない。国の方もきちっとした指針がなく、第二次の申し込みも先日あったが、その要件も「いま水が張れる様な状態になっていないと、畑地化を認めない」といった形で、あまりにも的外れな内容。畑地化の希望を出している人たちは、水田だったところを畑地化に向けて区画を大きくする等の効率化を行い、水を張れる様な状態になっていない。それを畑地化の要件に入れること自体、農水省の人たちが現場の状況を分かっていない気がする。町長も上京する際に、農水省の人たちに現場のことを伝えてほしい。畑地化を希望しているところは、水田から畑地に切り替えられるよう既に土壌を整備しているところがほとんど。要件等をつけず、畑地化を希望している人は、速やかに認めて貰えるようにしてほしい。国の方針で水田を作り、国の方針で水田を一時休止し、その後に今回の様な方針を出されると、今後が非常に不安。私たちは辞

めていく人間だが、これから農業に将来を託し、頑張っていこうとする若者たちが夢を見ることができず、不安だけが募ると思う。上京した際、地方の状況を見て考えてほしいと、国へ伝えてほしい。

町長：この件については、昨年の暮れに我々のところにも話がきた。まず国の趣旨がどういうことなのかを確認しようと農水省に行ってきたが、その際はこういったサイクルになるか、こういった条件があるか等は、はっきりしていなかった。具体的な話は出ていない中、我々が要望していたのは、おっしゃる通り、地域の実情を確認し、若い人が希望を持って農業が出来るような制度設計にしてほしいということ。只、今までも転作関連の奨励金を出している関係もあり、いずれ水田に戻せるようにというのが国の前提の考え方でもある。

町民：これだけ米が余っている中、また米を作れるような状態にしておきなさいという考えがそもそもおかしいし、最近の世界情勢の中で一時は自国の食料自給率をあげなさいという雰囲気が高まったが、2〜3年経つとその雰囲気が消えている。要は国の方で一貫性がない。だから若い人たちが将来、農家で食べていけるのか不安になる。面積を拡大しても、そういった地方の状況を国が考えてくれるのか。ちゃんと現場を分かっている、地方のことを考えてくれる人に、町長から強く訴えてほしい。

町長：北海道全体でも動いているところで、全体として纏まっていかないといけないところ。おっしゃって頂いたことは十分理解しているので、上京した際は国とも上手く折衝をしていきたいと思う。

町民：町の熊対策はどのようなになっているかお聞きしたい。

町長：今年は5月に1件。9月以降は14件の目撃情報が役場にあった。役場に連絡が入れば、すぐ産業振興課にて現地に出向き、猟友会とも連携をしながら、看板を立てたり、広報車で注意喚起をしたりと、必要な対策を行っている。熊は行動範囲が広いので、各町にも協議会が組織されるようになっており、地域同士で連携を図るような仕組みにもなっている。人的被害、農業被害が出ないように、山へ追い返す形での対応が基本。日中に平場で銃は使用出来ないといったルールがあったり、熊の出没にも、「ただ出没しただけ」、「農業被害が伴うもの」、「人的被害が伴うもの」といった形で1から4のランクがあり、それぞれのマニュアルに沿って対応している状況となっている。1件、3日間ほど継立の市街地に留まった熊がいた。そういった場合には所在地を把握する為に、職員が交代で夜通し熊を見張る等の対応をとったケースもある。ハンターが駆除をしたというケースは今のところない。

先日北海道の会議にも出席してきたが、保護団体との兼ね合いから、今までは春の熊の駆除を中止していた為、個体数が増えたことが原因ではないかとのこと。今年の出没状況を踏まえ、北海道も頭数を明確に決めて計画的に熊を駆除するような方針を出しているので、今後はそういった状況によってくると思う。

町民：間違いなく熊は増えている。日中に町中に出没している時点で、人間を恐れている様子もない。人的被害が出る前に、早め早めの対策が必要だと思う。

町長：そこが非常に難しいところ。狩猟法等でも、この場所、この時間では銃を撃てないといった制限もある。確かに人的被害が出てからでは遅いが、危険個体でなければ駆除しないといった方針もあるのが実情。

町民：猟友会のハンターも高齢化している。

町長：現在、町内には16名で足りていないと思っている。今後の育成について、町としても狩猟免許の取得支援を考えていきたい。